

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4920706号
(P4920706)

(45) 発行日 平成24年4月18日(2012.4.18)

(24) 登録日 平成24年2月10日(2012.2.10)

(51) Int.Cl.

B 4 2 D 11/00 (2006.01)

F 1

B 4 2 D 11/00

E

請求項の数 6 (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2009-26143 (P2009-26143)
 (22) 出願日 平成21年2月6日(2009.2.6)
 (65) 公開番号 特開2010-179599 (P2010-179599A)
 (43) 公開日 平成22年8月19日(2010.8.19)
 審査請求日 平成21年10月5日(2009.10.5)

(73) 特許権者 390029148
 大王製紙株式会社
 愛媛県四国中央市三島紙屋町2番60号
 (74) 代理人 100082647
 弁理士 永井 義久
 (72) 発明者 山本 大樹
 東京都豊島区北大塚1丁目13番4号 コ
 ンピュータ印刷株式会社内
 審査官 荒井 隆一

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 伝票用シート

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

基材に対して上紙が貼合されている伝票用シートであって、
 前記上紙は、輪郭切り取り補助線で囲まれる伝票片とその周縁に位置する余白部とを有し、

前記余白部は、少なくとも一部において基材に対して剥離不能に接着され、

前記伝票片は、その一部に切り取り補助線で囲まれる分離票を有し、かつ、裏面の分離票を除く範囲の一部又は全部に粘着部を有し、

前記基材は、粘着部に対向する部分が上紙に対して剥離可能とされかつ伝票片に重なる位置に、裏面から表面まで到達するハーフカット線により、他の部分から分離可能とされた分離領域が形成され、

前記分離領域は、前記分離票とその外方位置とに重なる位置にあり、かつ、幅広帯状であって、分離票の周縁間に架橋されるように配されており、

伝票片をめくることにより、前記分離領域が伝票片側に貼付された状態で、伝票片裏面の粘着部により被着体に貼付可能となり、かつ、分離票を切り取り補助線で切り離すと、分離領域の少なくとも切り取り補助線で囲まれる部分が露出される、ことを特徴とする、ことを特徴とする伝票用シート。

【請求項2】

分離領域の面積が、分離票の面積よりも小さい請求項1記載の伝票用シート。

【請求項3】

10

20

分離領域の分離票に対面する部位に情報が印刷されている請求項 1 記載の伝票用シート。

【請求項 4】

分離票は、前記分離領域に対してその一部又は全部において、剥離可能に疑似接着されている請求項 1 記載の伝票用シート。

【請求項 5】

分離領域は、分離票よりも外方に位置する部位の少なくとも一部において、伝票片に対して剥離不能に接着している請求項 1 記載の伝票用シート。

【請求項 6】

前記余白部に、伝票片内の情報に対応する照合情報が配されている請求項 1 記載の伝票用シート。 10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、宛先情報等を記入して配送品に貼付して用いる伝票用シートに関し、特に、ノンインパクトプリンタを用いた印字・印刷に適した伝票用シートに関する。

【背景技術】

【0002】

従来、ノンインパクトプリンタによる情報記入を容易にした伝票用シートとして、上紙と基材とが剥離可能に貼合され、上紙に伝票部等の各種情報記入部を配した伝票用シート 20 が知られている。

【0003】

この種の伝票では、上紙のほぼ全面に粘着剤が塗布されているとともに、基剤が離型処理されていたり、又は剥離紙により構成されているなどして、上紙と基材とを分離して、上紙の粘着塗布部分を露出させ、被着体に貼付可能となるように構成されている。

【0004】

そして、この種の伝票用シートにおいては、上紙を基材よりも大きくするとともに、その基材と重ならない部分に、切り取り補助線を介して配送票以外の返品票や明細票等を一体としたものも知られる。

【0005】

30

しかし、従来のこの種の伝票では、他の部分を分離した後に基材を剥離する必要があるとともに、下基材の全部を剥がすにあたって、情報記入欄のない裏面側からめくことになるため、分離した明細表との照合作業が煩雑となるなどの問題点があった。

【0006】

また、従来の二層構造のものは、上紙のみが伝票機能等の主たる機能を有し、基材については、単なる上紙の粘着部分を保護するためだけに用いられ、情報記載量が少なく、しかも基材が使用後には廃棄されるだけの無駄の多い構造であった。

【0007】

他方、近年、上紙、中間基材、下基材を貼合した三層構造の伝票用シートも普及してきている。この種の三層構造の伝票用シートは、上紙に伝票部や明細部など切り取り線で囲まれた適宜の領域が設けられているとともに中間基材表面と疑似接着されており、さらに中間基材裏面に粘着剤部を配して、これと対面する下基材の表面は離型処理されるなどして中間基材と剥離可能に構成されている。そして、使用にあたっては、下基材を剥離して中間基材裏面の粘着部を介して被着体に貼付するとともに、上基材の適宜領域を中間基材から必要に応じて切り離して使用する。 40

【0008】

この伝票用シートは、情報量が多くまた、比較的平坦であることからノンインパクトプリンタによる印刷性は上述の例よりも優れるが、三層構造であるがゆえに紙厚が厚くなり、コストが高く、またプリンタでの搬送性に劣るという欠点がある。

【先行技術文献】

50

【特許文献】

【0009】

【特許文献1】特開2005-132012公報

【特許文献2】特開平6-239058公報

【特許文献3】特開2004-341404公報

【特許文献4】特開2002-127644公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0010】

そこで、本発明の主たる課題は、ノンインパクトプリンタによる高速な印字・印刷に適した構造であるとともに、配送票とそれ以外の部分と照合作業が容易に行える伝票用シートを提供することにある。また、他の課題は、二層構造でありながら、伝票用シートの限られた紙面を有効に活用し、情報量の多い伝票用シートを提供する情報量を増加させることにある。

10

【課題を解決するための手段】

【0011】

上記課題を解決した本発明は次記のとおりである。

<請求項1記載の発明>

基材に対して上紙が貼合されている伝票用シートであって、

前記上紙は、輪郭切り取り補助線で囲まれる伝票片とその周縁に位置する余白部とを有し、

20

前記余白部は、少なくとも一部において基材に対して剥離不能に接着され、

前記伝票片は、その一部に切り取り補助線で囲まれる分離票を有し、かつ、裏面の分離票を除く範囲の一部又は全部に粘着部を有し、

前記基材は、粘着部に対向する部分が上紙に対して剥離可能とされかつ伝票片に重なる位置に、裏面から表面まで到達するハーフカット線により、他の部分から分離可能とされた分離領域が形成され、

前記分離領域は、前記分離票とその外方位置とに重なる位置にあり、かつ、幅広帯状であって、分離票の周縁間に架橋されるように配されており、

伝票片をめくることにより、前記分離領域が伝票片側に貼付された状態で、伝票片裏面の粘着部により被着体に貼付可能となり、かつ、分離票を切り取り補助線で切り離すと、分離領域の少なくとも切り取り補助線で囲まれる部分が露出される、ことを特徴とする、ことを特徴とする伝票用シート。

30

【0012】

【0013】

<請求項2記載の発明>

分離領域の面積が、分離票の面積よりも小さい請求項1記載の伝票用シート。

【0014】

<請求項3記載の発明>

分離領域の分離票に対面する部位に情報が印刷されている請求項1記載の伝票用シート。

40

【0015】

<請求項4記載の発明>

分離票は、前記分離領域に対してその一部又は全部において、剥離可能に疑似接着されている請求項1記載の伝票用シート。

【0016】

<請求項5記載の発明>

分離領域は、分離票よりも外方に位置する部位の少なくとも一部において、伝票片に対して剥離不能に接着している請求項1記載の伝票用シート。

【0017】

50

【0018】

<請求項6記載の発明>

前記余白部に、伝票片内の情報に対応する照合情報が配されている請求項1記載の伝票用シート。

【発明の効果】

【0019】

本発明によれば、ノンインパクトプリンタによる高速な印字・印刷に適した構造であるとともに、配送票とそれ以外の部分と照合作業が容易に行え、しかも、使用者に提供する情報量を増やすことができる伝票用シートが提供される。

【図面の簡単な説明】

10

【0020】

【図1】第1の実施形態の伝票用シートの平面図であるとともに、上紙の表面を示す図である。

【図2】第1の実施形態の伝票用シートの裏面図であるとともに、基材の裏面を示す図である。

【図3】図1のA-A断面図である。

【図4】図1のB-B断面図である。

【図5】第1の実施の形態の他の例の伝票用シートの平面図である。

【図6】本発明の伝票用シートの使用方法を説明するための図である。

【図7】第2の実施の形態の伝票用シートを説明するための断面図である。

20

【図8】第3の実施の形態の伝票用シートの平面図である。

【図9】図8のC-C断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0021】

次いで、本発明の実施形態を図1～9を参照しながら以下に詳述する。

『第1の実施の形態』

本形態の伝票用シートX1は、上紙1と基材2とを有する2層構造をなしている。

前記上紙1は、輪郭切り取り補助線L1で囲まれる矩形の伝票片10とその周縁に位置する余白部11とを有する。図1～4に示す例では、伝票片10を取り囲むように伝票片10の全周縁外方に余白部11が存在しているが必ずしもこの例に限らず、一部に余白部11を有する形態であってもよい。すなわち、図5に示すように輪郭切り取り補助線L1の一部が伝票用シートX1の周縁を兼ねる態様であってもよい。

30

【0022】

なお、輪郭切り取り補助線L1は、当該線に沿って切断されるように配した、ミシン目線、ジッパーミシン目線、ハーフカット線などであり、最も好ましい輪郭切り取り補助線L1は、簡易に切断されるハーフカット線である。なお、本例では、矩形に囲まれる伝票片の適宜の部のコーナーが小三角状にカットされた所謂コーナーカット50が施されており、切り取り開始端として当該コーナーが摘みやすくなっている。

【0023】

他方、前記余白部11においても上紙1と基材とは接着部12により粘着している。この余白部における上紙と基材とは剥離可能であっても、剥離不能であってもよい。但し、少なくとも一部において基材2に対して剥離不能に接着されているのがよい。余白部11における接着部分12を設ける場合には、伝票片10を囲むようにあるのがよく、点在していてもよいし、線状に存在していてもよい。図示例のように余白部11のほぼすべての部分が接着されている形態やすべての部分が接着されている形態もあり得る。

40

【0024】

余白部11において上紙1と基材2とを剥離不能に接着するにあたっては、既知の非剥離性接着剤や粘着剤を用いることができる。この接着剤等は、印刷技術、塗工技術により上紙裏面若しくは基材表面に配することができる。

【0025】

50

他方、前記伝票片10は、その一部に切り取り補助線L2で囲まれる分離票10Aを有する。ここでの切り取り補助線L2も、輪郭切り取り補助線L1と同様にミシン目線、ジッパーミシン目線、ハーフカット線などが採用できるが、少なくとも輪郭切り取り補助線より切断し難いのが望ましく、好ましくはミシン目線、特に好ましくは一定方向のみに切断しやすいジッパーミシン目線である。

【0026】

また、伝票片10は、例えば、フレキソ印刷、オフセット印刷、グラビア印刷等の既知の印刷技術により枠欄や当該枠内に記載すべき情報を指定する表示等の不変情報を印刷することで、分離票10A部分が第1情報記入部を有する受領証とされ、その他の部分10Bが同様の印刷技術によって、第2情報記入部を有する配送票とされる。なお、伝票片10における分離票10A及びその他の部分10Bにおける不変情報は適宜のものとされ、伝票片10全体として伝票機能を有するように不変情報が印刷などにより形成されていればよく、本願発明においてその不変情報は限定されるものではない。

10

【0027】

さらに、伝票片10は、基材1に対面する裏面側における分離票10Aを除く範囲に粘着部13を有している。この粘着部13は、例えば、ホットメルト粘着剤、アクリル系粘着剤、天然ゴム系粘着剤、合成ゴム系粘着剤、シリコン系粘着剤等の既知の粘着剤が層状、薄膜状、網目状に配されてなる部分であり、適宜の粘着力を有して、伝票用シートを配送品に貼付するためのものである。粘着部13の層厚は、特に限定されない。通常は、10～50μm、好ましくは20～30μm程度である。10μm以下だと粘着力が不足する恐れがあり、50μm以上になると粘着剤が基材等からはみ出す恐れがある。なお、上記掲げた粘着剤のなかで最も好ましいのは乾燥性に優れるホットメルト粘着剤である。

20

【0028】

他方、基材2は、少なくとも粘着部13に対向する部分には離型処理されるなどして、上紙1の伝票片10は基材2に対して分離可能となっている（図中、離型処理部分を符号14で示す）。ここで、分離可能とする離型処理としては、例えば、基材2の粘着部対向面をシリコン、長鎖アルキルポリマー、ポリオレフィン、アルキド樹脂、フッ素化合物等の離型剤を層状、薄膜状、網目状に配するなどすればよい。このような離型剤を配するには、既知の印刷技術や塗工技術が採用できる。また、基材2を剥離紙とすることでも上紙1の伝票片10を剥離可能とすることができる。

30

【0029】

なお、本発明においては、上述の余白部11において上紙1を基材2に対して剥離不能にするための接着剤等と粘着部13を形成する接着剤等が同じものであってもよい。すなわち、余白部11における接着部分12と粘着部13とは同一の粘着剤等による粘着剤層とされ、余白部11に対面する基材裏面の全部又は適宜の部位を離型処理等しない非剥離性とした態様であってもよい。

【0030】

他方、基材2には、裏面から表面まで到達するハーフカット線L3により、他の部分から分離可能とされた分離領域20を有する。そして、この分離領域20は、前記分離票10Aとその周縁外方位置とに重なる位置にある。すなわち、分離領域20の一部は、前記分離票10Aに対面する位置にあるとともに、その他の一部は粘着部13と重なる位置にある。なお、図示例では、ハーフカット線が連続して分離領域20の輪郭を形成するように配されているが、本発明はこの例に限定されない。例えば、ハーフカット線が断続的に配されているとともに、このハーフカット線に連続して基材の一部が切り抜かれ、ハーフカット線と切り抜き領域により分離領域が囲まれているような態様をも含む。

40

【0031】

また、分離領域20には、前記分離票と対面する部位に、その他の部分から切り取り可能とする切り取り補助線L4が設けられている。そして、図示はされないが、少なくともこの切り取り補助線により分離可能となる領域21に受取人が視認可能な不変情報が印刷されている。この不変情報は、例えば、配達者の連絡先や、商品広告、クーポン券情報な

50

ど適宜の情報とすることができる。本発明では、この情報の種類については限定されないが、好ましくは受取人が伝票用シートから分離して、何らかの付加価値として利用可能な情報が望ましく、具体的には、クーポン券情報などが好適である。この分離領域20内に形成する切り取り補助線L4としては、ミシン目線、中でもジッパーミシン目線が望ましい。

【0032】

他方、分離領域20は、使用の際に伝票片10によって確実に被覆されるようにするのが望ましく、分離票10よりも小さい面積であるのが望ましい。特に、図示例の如く、分離領域が幅広带状であって、分離票10Aの周縁に架橋されるがごとく配されるのが望ましい。このようにすると、粘着部を介して被着体に貼着したときに、分離票10によって 10
確実に分離領域20内の情報が被覆され、また伝票片10の剥離時に当該分離領域20が伝票片10側に採られやすくなる。なお、また、分離領域20の少なくとも分離票対向面は離型処理しないのが望ましい。離型処理されないことにより、印刷された不変情報が鮮明なものとなる。

【0033】

ここで、分離領域20は、分離票10Aよりも外方に位置する部位の少なくとも一部において、伝票片10に対して剥離不能に接着されているのが望ましい。

なお、本形態では、基材2は、基本的には裏面に粘着部を有さないのが望ましい。

【0034】

以上の構成をとることにより、本発明の伝票用シートX1では、図6(a)に示されるように、上紙1の伝票片10内における分離票(受領証)10A及びその他の部分(配送票)10Bにプリンタによって宛名などの必要な可変情報を印刷した後に、図6(b)に示されるように、伝票片10をめくることにより、輪郭切り取り補助線L1及びハーフカット線L3が切断される。 20

【0035】

このとき、基材2の分離領域20の一部が分離票周縁外方と重なっているため、当該分離票は伝票片10側に貼付された状態で、伝票片10が他の部分から分離される。この状態においては、伝票片10の裏面の粘着部13が露出されるので被着体Dに貼付可能となる。

【0036】

さらに、図6(c)に示すように、伝票片10を被着体Dに貼付した後に、図6(d)に示すように、切り取り補助線L2で分離票10Aを切り離すと、基材2の一部であった分離領域20の少なくとも切り取り補助線L4で囲まれる部分が露出する。そして図6(e)に示すように、受取人は、当該分離領域20内にある切り取り補助線L4で囲まれる領域21を分離して、そこにある情報を必要に応じて活用する。例えば、クーポン券情報等であれば、必要に応じてそれを使用する。 30

【0037】

『第2の実施の形態』

次いで、第2に実施の形態の伝票用シートX2について、図7を参照しながら説明する。本形態の伝票用シートX2は、伝票片10における分離票10Aが、基材2の分離領域 40
20に対して、その一部又は全部において、剥離可能に疑似接着されている例である。なお、第1の実施の形態X1と同様である構造及び使用方法については説明が重複するため省略する。また、本形態は平面図及び裏面図は第1の実施の形態と同様であるのでこれも省略する。

【0038】

第1の実施の形態X1では、分離票10Aと分離領域20とは非接着の状態であり、実質的に分離票10が基材2から浮いた状態となる。本第2の形態X2では、図7に断面図(断面位置は図1のA-A部位と同様)示すように、分離票10Aと基材2の分離領域20とが疑似接着されている。なお、疑似接着部分は、分離領域20の全体に設ける必要はなく、一部であってもよい。 50

【0039】

図示例では、分離票10Aと基材2の分離領域20との間に疑似接着剤層15が形成され、分離票10Aの分離時にこの疑似接着剤層15が層間剥離するように構成され、剥離可能かつ再接着不能に疑似接着している。なお、疑似接着剤の種類あるいは疑似接着の方法は本発明では特に限定されない。圧着により一時的に接着し、剥離後に再接着しなくなる圧着接着剤を用いてもよい。さらに、これに限定されず、この分離領域と伝票片との間に剥離可能に一時的に接着し、剥離後に再接着しないように構成した既知の接着構造、例えば糊殺し等を採用することができる。

【0040】

本例X2では、伝票片10が被着体に貼付され、分離票10Aが剥離されるまで基材2の分離領域20と当該分離票10Aとが一体的であるため、意図せず分離票10Aが分離してしまう事故がより防止される。

10

【0041】

『第3の実施の形態』

次いで、第3の実施の形態の伝票用シートX3を図8及び9を参照しながら説明する。

第1の実施の形態X1及び第2の実施の形態X2は、実質的に上紙1と基材2とが同一の大きさとされており、プリンタの搬送性において好適であるが、本発明はこのような形態に限られない。例えば、上紙1、基材2の何れかが一方より大きい形態であってもよい。

【0042】

20

この形態を第3の実施の形態の伝票用シートX3として説明する。なお、第1の実施の形態X1及び第2の実施の形態X2と同様又は重複して適用される構造及び使用方法については説明を省略する。

【0043】

本形態X3は、例えば、図8及び図9に示すように、上紙1が基材2より大きくされて、余白部11が広くされている。そして、この余白部11に、伝票片10Aに対応する照合情報10Cが印刷されている。

【0044】

本形態X3では、この照合情報10Cを含む余白部11の一部が切り取り補助線L5によって分離可能となっている。照合情報10Cは、例えば、伝票片10に配した受領証10Aや配送票10Bを構成するための不変情報に対応する情報であり、例えば発送者控えなどが挙げられる。この照合情報10Cもまた、既知の印刷技術によって、枠欄などを印刷することで形成することができる。この本形態では、発送者控えを容易にとることができる利点がある。

30

【産業上の利用可能性】

【0045】

本発明は、配送品に貼付して用いる伝票用シートに利用可能である。

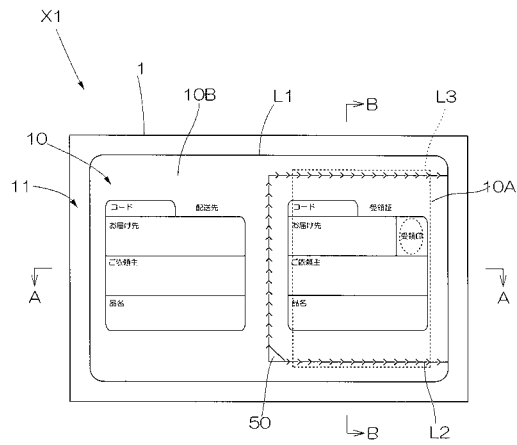
【符号の説明】

【0046】

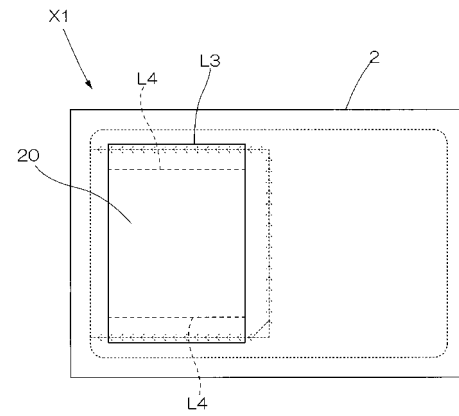
1…上紙、2…基材、20…分離領域、10…伝票片、10A…分離票（受領証）、10B…伝票片の分離票以外の部分（配送票）、10C…照合情報部、11…余白部、12…接着部分、13…粘着部、14…離型処理部分、15…疑似接着剤層、50…コーナークット、L1…輪郭切り取り補助線、L2、L4、L5…切り取り補助線、L3…ハーフカット線、D…被着体、X1～X3…伝票用シート。

40

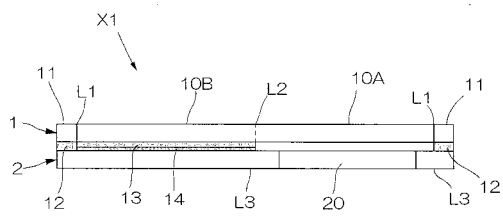
【図 1】



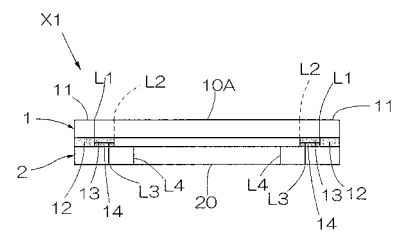
【図 2】



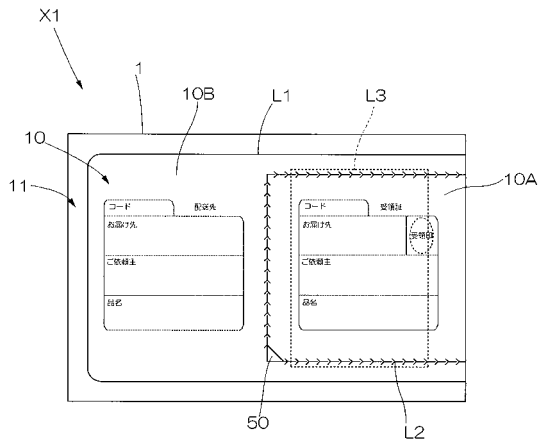
【図 3】



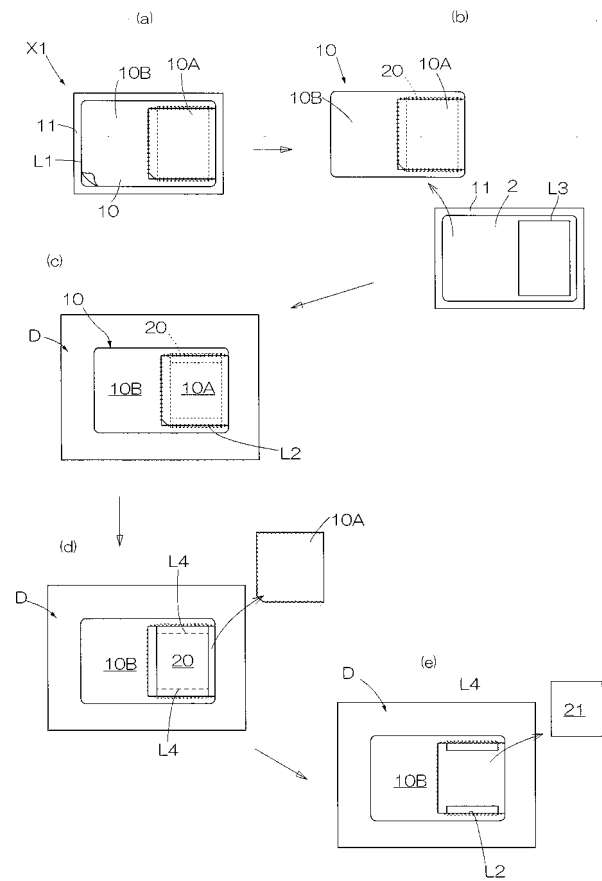
【図 4】



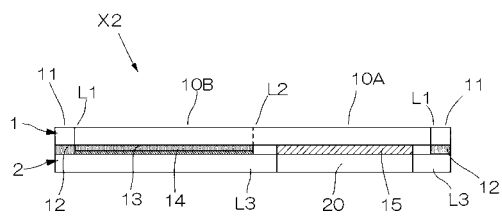
【図 5】



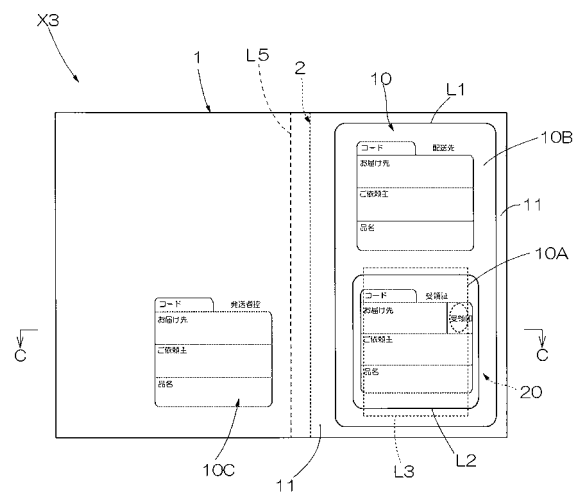
【图 6】



【图 7】



【图 8】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開2005-132012 (JP, A)
登録実用新案第3120639 (JP, U)
登録実用新案第3094763 (JP, U)
特開2002-14617 (JP, A)
特開2002-29179 (JP, A)
特開2002-175014 (JP, A)
特開2002-19333 (JP, A)
特開2007-144855 (JP, A)
特開2007-1150 (JP, A)
特開2008-213224 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B42D	1/00-15/10
G09F	3/00- 3/20